

# インシデント・コマンド・システム (ICS) : 入門編 (ICS100) 概要

一般社団法人レジリエンス協会代表理事  
一般財団法人リスクマネジメント協議会評議員  
**黄野 吉博**  
一般社団法人レジリエンス協会  
**白澤 健志**

インシデント・コマンド・システム (ICS) は米国が国家規模で制定し導入している、災害対応の現場指揮システムである。ICSの全体概要については前回のRM Searchを参照されたい。ICSの教育コースは入門から応用

までいくつかの段階や分野に分けて構成されている。そのうち入門編 (ICS100) と基礎編 (ICS200) を含む一部のコースのテキストは FEMA (米国危機管理庁) のHPで公開されている。今回は、このうち入門編 (ICS100) の内容を抄訳し紹介する。なお現在、国内の関係者により全訳の作業が進められているが、本稿は独自に訳出したものであり、全訳版とは訳語等が異なることを記しておく。

## 1 コースの概要

- コースは7つの単元で構成される。
  - 単元1: コースの概要
  - 単元2: ICSの概要
  - 単元3: ICSの特徴と原則
  - 単元4: 指揮者と指揮スタッフ機能
  - 単元5: 一般スタッフ機能
  - 単元6: 統合指揮
  - 単元7: コースのまとめ(略)
- 以下、単元に沿って説明する。

## 2 ICSの概要

標準化され、現場に即した、あらゆる災害に対応するためのインシデント・マネジメントの概念である。

## (1) ICSとはなにか

平時の組織構造との相違は、ICS独特の役職名と組織構造があることと、要員の配置を階級ではなく専門性に基づいて行うことである。

## (2) 指揮の確立と移譲

NIMSは「指揮」を「明文化された法規または権限移譲に基づき指示・命令・管理すること」と定義している。現場ではインシデント・コマンド (指揮者) が指揮権を持つ。

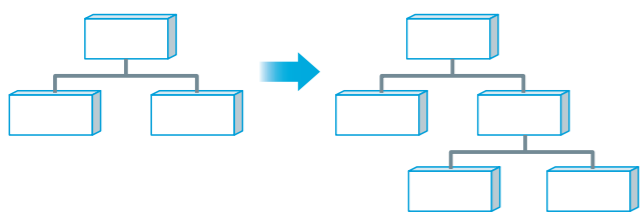
## (3) 計画策定と組織構造

指揮者は、指揮系統に基づき、監督下の全要員の行動を指示管理できる。要員の行動にはスーパーバイザー (監督者) の命令が必要であり、これにより組織の混乱が防止される。なお、指揮系統の存在は要員同士の直接的な情報共有を妨げるものではない。

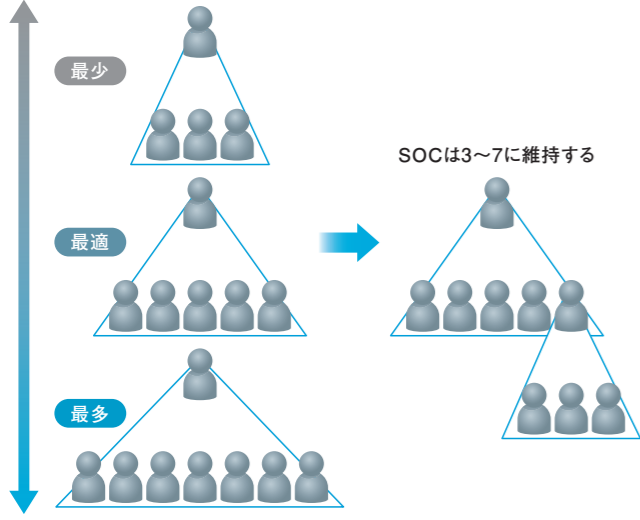
## (4) 災害対応計画 (IAP)

IAPは戦略そのものである。災害対応の目標の優先順位は、まず「生命の安全」、次に「事態の安定化」、

図表2 モジュラー組織の拡張



図表3 統制範囲 (SOC) の維持



様々な組織が協調して対応することを実現するものである。計画の策定と資源の管理についての共通プロセスを設定するものである。施設・設備・人員・手順・通信、共通の組織構造の中で統一的に運用することを可能にするものである。

## (2) いつICSを使うのか

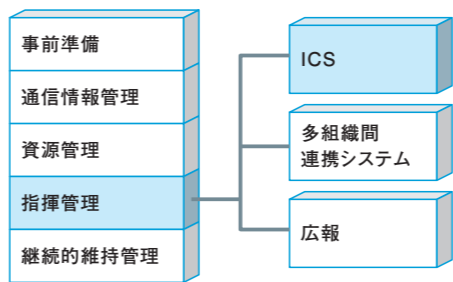
自然災害、技術的災害、人為災害、そして計画的イベントを管理する時。

## (3) なぜICSを使うのか

何よりも、人命を救うのに有効だからである。また同時に、国家インシデント・マネジメント・システム (NIMS) で定められているからでもある。

## (4) NIMSの5要素とICS

図表1 NIMSの5要素とICSの関係



NIMSは「事前準備」「情報通信管

理」「資源管理」「指揮管理」「継続的維持管理」の5要素で構成される。このうち「指揮管理」を構成する3要素が「多組織間連携システム」「広報」そして「ICS」である。(図表1)

## (5) ICSがないとどうなるか

責任の欠如が起こる。曖昧な指揮監督系統もその一つである。システムの非効率利用と略語や用語の不一致で意思疎通の不全が起こる。秩序ある組織的な計画策定プロセスが欠如する。共通性や柔軟性に欠ける管理構造のため、指揮者は権限移譲による負荷の効率よい管理ができない。組織間の要求を、管理構造や計画策定プロセスに効果的に統合する方法が事前に定められていない状態になる。

## (6) ICSを使うことの効用

要員の安全確保、災害対応の目的達成、資源の効率的利用に役立つ。

## (1) 標準化

共通用語と平易文の使用は、ICS内の意思疎通能力向上に不可欠である。

## (2) 共通用語

共通用語と平易文の使用は、ICS内の意思疎通能力向上に不可欠である。

## (3) 場所と施設

指揮所 (インシデント・コマンド・ポスト、ICP) : 指揮者が全業務を監視する場所。スタンディングエリア : 配置を待つ要員や設備が集積される場所。ベース・物資調達および総務の主要機能を調整管理する場所。キャンプ : ベースに保管しきれない資源を置いておく場所。

## (4) 総合的資源管理

資源管理は「分類・発注・発送・追跡・補充」のプロセスで構成される。

## (5) 情報通信管理

統合通信 : 災害時の通信は、共通通信計画の設定と活用、および通信手段・手順・システムの相互運用によって促進される。

## (6) プロフェッショナルリズム

説明責任 : 現場では特に次の原則を守ること。災害対応計画 (IAP) : 運用は必ずIAPに沿って行う。指揮の一元性 : 各要員はそれぞれただ一人の監督者のもとに配置される。統制範囲 : 監督者は配下の要員を適

切に監督統制しなければならない。  
 ●資源の追跡：監督者は資源の状態変化を記録し報告しなければならない。  
 ●災害対応に際しては、自らのストレスを管理し、プロフェッショナルであり続けること。  
 ●派遣および展開  
 ●指示があるまでは平常業務に就く。自己判断で現地に赴かないこと。  
 ●現場では、まずチェックインをして担当業務の割り当てを受ける。

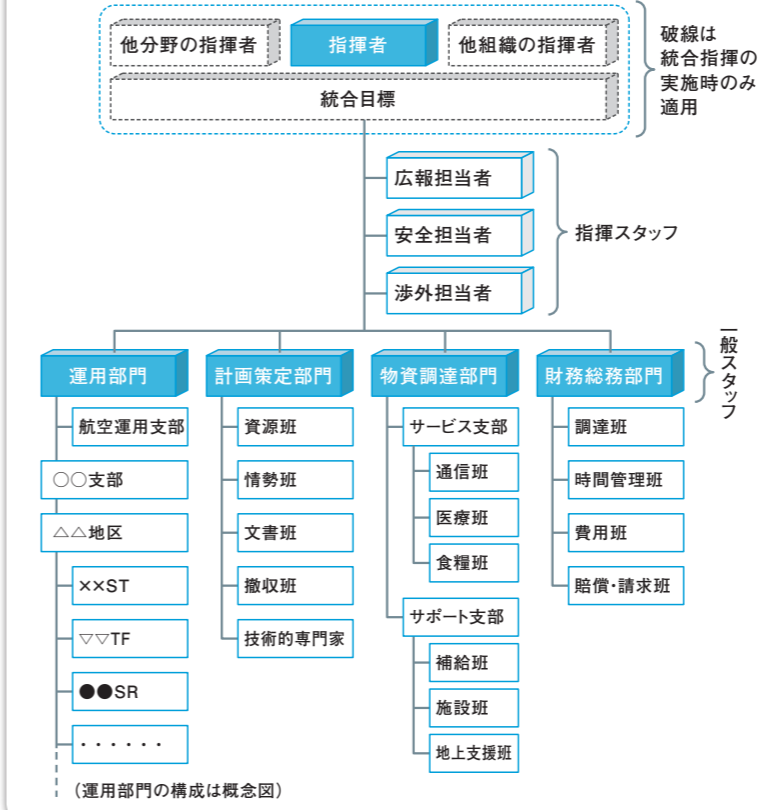
4 指揮者と指揮スタッフ機能

① 5つの管理機能

- ① 指揮
  - 目標、戦略、優先順位を設定する。
  - 災害対応の全責務を引き受ける。
- ② 運用
  - 戦術と資源を決定する。
  - 戦術レベルの対応を指示する。
- ③ 計画策定
  - 情報を収集し分析する。
  - 資源を追跡する。
  - 文書を更新する。
- ④ 物資調達
  - 資源と必要なサービスを供給する。
- ⑤ 財務・総務
  - 災害対応にかかる費用を把握する。
  - 会計・調達・時間管理・費用分析を行う。

- (2) 指揮者
  - ① 指揮者の機能
    - 指揮者はICSの5つの管理機能全てに責任を持つ。小規模災害では指揮者が5機能を一人で兼ねることもある。
  - ② 管理機能の委譲
    - 指揮者は災害の規模に応じて、下位の部門を設置し、権限を委譲できる。
  - ③ 指揮者の責務
    - 災害対応の安全性を確保すること。
    - 内外関係者に情報を提供すること。
    - 他機関との連絡を維持すること。

図表4 ICSの機能と組織(青色は必須機能、他は必要に応じ設置)



- ④ 代理指揮者
  - 指揮者は一人以上の代理を置くことができる。代理は以下の業務を行う。
    - 指揮者が求める特定の任務
    - 処理能力超過時の指揮機能の代行
    - 管轄の支援機関の代表の代行
- (3) 組織の拡張
  - 指揮者は、災害の拡大に合わせて、指揮スタッフ(広報担当者、安全担当者、渉外担当者)および一般スタッフ(運用部門、計画策定部門、物資調達部門、財務・総務部門)の組織を拡張して権限を委譲することができる。

5 一般スタッフ機能

① ICSの組織構造の要素

- ① 部門(セクション)・・・4つの主要機能の責任階層。
- ② 地区(ディビジョン)・・・災害が広域にわたる場合の地理的な区分。
- ③ 集団(グループ)・・・運用の機能分野。
- ④ 支部(ブランチ)・・・地区や集団の数が統制範囲を超える時に設ける区分。
- ⑤ タスクフォース(TF)・・・多様な資源で構成されるチーム。
- ⑥ ストライクチーム(ST)・・・単一種類の資源で構成されるチーム。
- ⑦ シングルリソース(SR)・・・必要な装備等を持つ、特定分野の専門家。

(2) ICS監督層および補佐の役職名

- ① 指揮：指揮者／代理(デプティ)
- ② 指揮スタッフ：オフィサー／補助者
- ③ 一般スタッフ(部門)：チーフ／代理
- ④ 支部：ディレクター／代理
- ⑤ 地区・集団：監督者／(非該当)
- ⑥ 班(ユニット)：リーダー／マネージャー
- ⑦ ST・TF：リーダー／SRポス

(3) ICSの部門チーフとその代理

部門チーフは一人以上の代理を置くことができる。代理はチーフの責務の特定の一部を引き受けることができる。

(4) 組織間連携の増進

災害対応が複数の組織に跨って行われる場合、他組織からの代表者を「代理」として配置することで組織間連携が増進される。

(5) 運用部門の主要活動と特徴

- 他部門より先に立ち上げられる。
- 全ての戦術運用を指示調整する。
- 下層から順に拡張される。
- もっとも多くの資源を持つ。
- スタージングエリアと特別組織を持つことがある。
- 小規模災害の場合、運用部門はチーフと複数の専門家で構成される。
- 運用部門のチーム例：捜索救難ST、救急ST、周辺警備ST、被害査定TF、避難所・給食TF、公共事業

TF、等。

(6) チームの統制範囲

チーフが抱えるチーム数が統制範囲を超えてしまうような場合、いくつかのチームを一人の集団監督者の下にまとめることが望ましい。広域災害の場合は地区を分けることも有効である。複合災害で、集団や地区の数がチーフの統制範囲を超えるような時、チーフは複数の集団を束ねる「支部」を設置し、それぞれにディレクターを置くことができる。

(7) 計画策定部門の主要活動と班

- 資源の追跡(資源班)
- 情報の収集・評価・公表(情勢班)
- IAP策定と文書の更新(文書班)
- 撤収計画の策定(撤収班)

(8) 物資調達部門の主要活動と班

- 通信計画策定と資源提供(通信班)
- 対応要員への医療の提供(医療班)
- 対応要員への食事提供(食糧班)
- サポート支部
  - 人員・器材・消耗品の発注、入手、管理、会計(補給班)
- 施設の設置と維持管理(施設班)
- 地上交通手段の提供(地上支援班)

(9) 財務・総務部門の主要活動と班

- 契約交渉と履行監視(調達班)

6 統合指揮

- 要員の業務時間管理(時間管理班)
- 費用分析(費用班)
- 人身傷害や財産の損害賠償、賠償のための文書作成(賠償・請求班)

統合指揮とは、様々な機関や組織の指揮者が単一指揮組織を形成して共同運用を行うことである。これにより、法的、地理的、機能的に責務が異なる団体や機関が効果的に計画し調整し協力し合うことができる。統合指揮では、指揮者達は共同で決定を下し、単一のアナウンスをする。指揮の一元性は維持され、個々の対応要員の報告先は各専門分野の監視者ただ一人である。

(1) 統合指揮の効果

- 優先順位と制約認識が共有される。
- 災害対応の目標が一つにまとまる。
- 協働的戦略がとれる。
- 内外の情報の流れが促進される。
- 労力の無駄な重複が削減できる。
- 資源をより有効に活用できる。

(2) 統合指揮の特徴

- 災害対応の単一統合組織である。
- 施設は一か所に共有配置される。
- 災害対応目標、計画策定プロセス、災害対応計画のいずれも単一である。

- ① 広報担当者(PIO)
  - 情報発信と広報対応について指揮者に助言する。
  - 計画策定部門、地域社会、報道機関と情報交換する。
- ② 安全担当者
  - 安全性の問題を指揮者に助言する。
  - 関係する全要員の安全を確保する。
- ③ 渉外担当者
  - 関係機関との連絡窓口を務める。
  - 支援組織への説明を行う。

(5) 統合情報センター(JICC)

広報活動を連携よく行うためにJICCを設立することができる。JICCは全報道機関に対する広報窓口として機能する。可能なら全関係機関の広報担当者がJICCに同居することが望ましい。

ICS100では、ICS最大の特徴である「5つの機能と組織構造」について、「共通化・標準化」「柔軟性・拡張性」をキーワードに説明した。今回は基礎編にあたるICS200を紹介する。